

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2011.11.15 No.121 連絡先 FAX 042-555-1911



横田基地374空輸航空団のサムライサージ訓練はどんなものだったのか



11月2日午前中に、横田基地第374空輸航空団のサムライサージ訓練が行われました。関東平野の上で、2機のUH-1Nヘリコプター、1機のC-12、6機のC-130が編隊飛行や急降下、機材の空中投下訓練など、デモンストレーションを行ったようです。第374運用支援中隊は航空機器をチェックするなど、他のいろいろな部署も結集したようです。「西太平洋の唯一の空輸ハブとして横田は、世界のどこでも出動する、準備されている遠征軍を用意している。これが大規模訓練をする理由である」という。サムライサージ訓練は、世界のどこでも出動する遠征軍の訓練だったのですね。(2枚の写真：米空軍HPより)

沖縄県道104号線越え実弾演習 155りゅう弾砲が横浜を経て北富士へ！

米海兵隊は、沖縄のキャンプ・ハンセンで実施していた県道越えの実弾演習を沖縄の負担軽減を理由に1997年以降、本土5カ所（北海道・矢白別、宮城・王城寺原、静岡・東富士、山梨・北富士、大分・日出生台）で実施しています。実際は本土への拡大です。



11月11日から24日までの日程で、北富士演習場で人員約430名、車両約100両、砲数12門の大隊レベルの実弾演習が予定されています。7日早朝、横浜ノース・ドックで、155りゅう弾砲などの物資が陸揚げされ、国道16号線などを使って演習場へ搬送されました。神奈川県平和委員会と横浜ノース・ドック基地問題懇談会は7日早朝、船をチャーターし、海上から監視・抗議行動を行い、横浜市と防衛省南関東防衛局へ要請など行っています。(上写真7日11時40分撮影、提供：神奈川県平和委員会)

日出生台(ひじゅうだい)演習場で陸上自衛隊の大規模演習 11月10日から！

九州大分県の日出生台演習場で、11月10日から18日まで陸上自衛隊の大規模訓練が実施されます。この陸自西部方面隊による「平成23年度方面隊実動演習」の目的は「多様な事態に有効に対応するため、中央即応集団との連携要領を演練し、方面隊の武力攻撃対処能力の維持・向上を図る」というものです。演習場所は、西部方面区（日出生台演習場、大矢野原演習場、霧島演習場等）で、演習の概要は、島嶼（とうしょ）部の防衛を含む各種行動（部隊の展開、集結地での行動、警戒、監視、防御、重要防護施設等防護）の訓練を実施します。

訓練部隊等は、西部方面総監部、第4師団、第8師団、第15旅団、西部方面隊各直轄部隊、中央即応集団（第1空挺団、第1ヘリコプター団等）、北部方面隊（第11普通科連隊等）です。

そして、人員は約5,400名、車両等は約15,000両、航空機約30機が参加します。

訓練は、南西地域の離島で武力攻撃を受けた場合などの防衛を想定して行われ、昨年12月に策定された防衛計画の大綱に掲げている「動的防衛力」を強化する狙いがあります。(関連裏面に)

千歳～苫小牧 50トンの90式戦車などが 公道30kmを走行

(No. 121 の裏面)

北海道の東千歳駐屯地に所属する陸上自衛隊第7師団の90式戦車4両はじめ89式装甲戦闘車やジープなど約60両が、11月6日深夜から7日未明にかけて苫小牧西港までの公道を走行しました。車両のベルトに騒音防止や道路保護用のゴムを付け、時速10キロ程度で国道36号など約30キロを走りました。途中、89式装甲戦闘車1台から白煙が上がり走行できず回収される場面も。轟音響かせる走行車に「戦車は公道を走るな」と沿道から抗議の声が上がりました。

90式戦車などはフェリーで大分港へと向かい、大分県の日出生台（ひじゅうだい）演習場等での陸上自衛隊の最大規模の演習に参加します。

民間フェリーで 九州・大分港に 北海道の陸自戦車到着

陸上自衛隊第7師団（北海道千歳市）の戦車や装甲戦闘車など大型車両を積み込んだ民間フェリーが9日朝、九州・大分市の大分港に到着しました。戦車や装甲戦闘車などは、大型トレーラーなどで日出生台演習場へ陸上移動します。この大移動は「協同転地演習」の一環です。

協同転地演習とは、2005年に、これまでの北方機動特別演習に変わって実施されるようになった、陸上自衛隊の機動展開演習のことです。これまで通りの本州や九州の部隊の北海道への「北方転地演習」に加えて、北部方面隊を本州に展開させる「南方転地演習」も行われるようになりました。しかし、北海道の部隊が九州の演習に参加するのは今回初めてです。

演習に道内から参加するのは、第7師団の約410人と車両約120両。

73式装甲車を JR 札幌貨物ターミナル駅から 貨物列車で西大分駅へ

10月29、30の両日、札幌市白石区のJR札幌貨物ターミナル駅では、全長5.8m、全幅2.9m、全高2.2mの73式装甲車装甲車をクレーンで1両ごと持ち上げ貨物列車に移し、1日5両ずつ10両を貨物列車に積み込みました。11月4日に大分県の西大分駅に到着。その後、日出生台演習場に移動します。

11月10日、演習初日は、ヘリコプターが上空から演習場周辺の偵察を行なったほか装備品や食料などを運び込むなど訓練の本格実施に向けて準備が進められました。

今月20日から3日間は戦車や迫撃砲による実弾射撃訓練が予定されているそうです。

東千歳駐屯地所属の第7師団は機甲師団 戦車100両が420キロの転地演習

陸自第7師団は自衛隊で唯一戦車主体の師団（いわゆる機甲師団）であり、90式戦車が配備されています。少し前の9月7日の北海道新聞に、8月31日から9月9日まで、陸自第7師団による「転地演習」が矢臼別演習場で行われた、との記事があったそうです。

この転地訓練は、戦車100両を420キロ離れた戦場へ移送する訓練です。動的防衛力構想の下で、大規模な戦車部隊を長距離機動させる訓練なのだそうです。50トンの重量がある90式戦車は、公道を走れないため、戦車の砲塔部分と車体部分を分解して、トラックで運ぶ。これだけの重量物を運ぶ運送能力にも限りがあり、全部運び終えるのに4週間を要したとのこと。



この演習について、「転地演習は、歴史的役割を終えた第7師団を維持するためのデモンストレーションではないか」とコメントした方がいました。歴史的役割を終えたなら軍縮すべきでしょう。

今回の北海道から九州までの協同転地演習は、デモンストレーションではすまない危険なものを感じます。(写真：90式戦車、全長9.80m、車体長7.55m、全幅3.40m、重量50.2トン、ウィキペディアより)